

リオンの

風

第102期 事業報告書

2022.4.1 — 2023.3.31

CONTENTS

一目でわかる決算情報	1
トップインタビュー	3
特集 技術で創出する価値① 国際宇宙ステーションの飲料水の 安全管理に挑戦	7
特集 技術で創出する価値② 難聴の早期発見と適切な診察・診断へ つなげる聞こえチェッカー	9
トピックス	11
業績の推移	12
会社案内	13
株主メモ	14
音を科学する	裏表紙



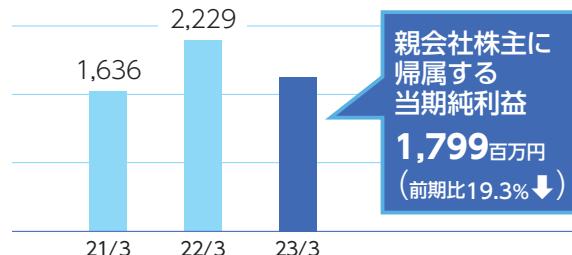
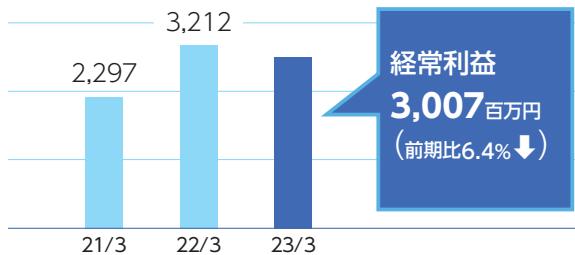
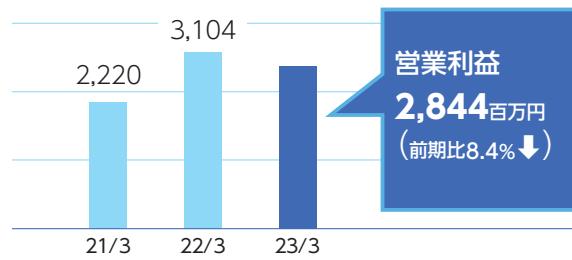
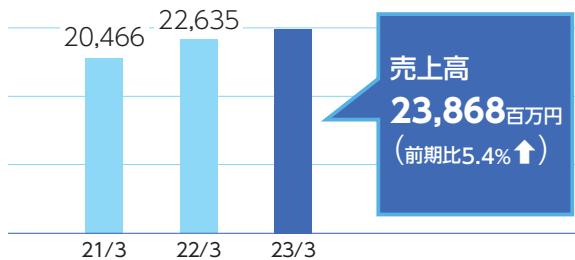
決算のポイント

- 売上高は過去最高を達成、営業利益・経常利益は過去最高に次ぐ
- 微粒子計測器の好調に加え、補聴器が復調

2023年度の見通し

- 新製品の投入や成長分野への継続的な投資によって、増収増益を見込む

決算ハイライト



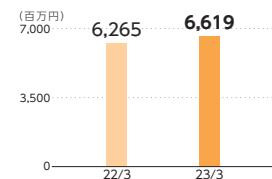
事業別ハイライト

微粒子計測器事業

27.7%

売上高 **6,619**百万円 (前期比5.6%↑)
営業利益 **1,538**百万円 (前期比10.8%↓)

微粒子計測器



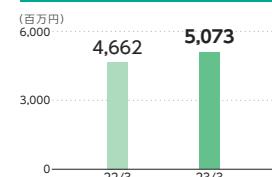
●液体や気体の中に浮遊する微粒子を測定する微粒子計測器を提供しています。当期は半導体工場で使用される液中微粒子計の販売が引き続き好調に推移した一方で、旺盛な需要に対応するために設備等の生産体制を強化したことなどにより、増収減益となりました。

環境機器事業

21.3%

売上高 **5,073**百万円 (前期比8.8%↑)
営業利益 **299**百万円 (前期比47.8%↓)

音響・振動計測器



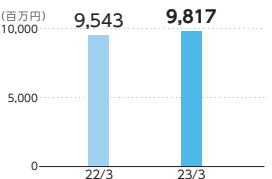
●騒音計、振動計、地震計など、産業や環境に関する分野で使用される音響・振動計測器を展開しています。当期は海外市場における販売が好調に推移した一方で、販売活動や新製品開発の費用が増加したことなどにより、増収減益となりました。

医療機器事業

51.0%

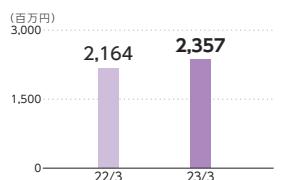
売上高 **12,175**百万円 (前期比4.0%↑)
営業利益 **1,005**百万円 (前期比24.9%↑)

補聴器

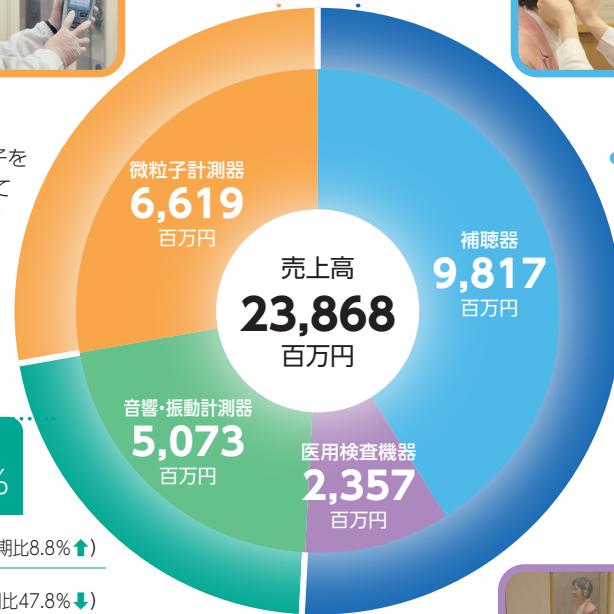


●1948年に日本初の量産型補聴器を発売し、75年以上にわたり国産補聴器を展開しています。当期は行動制限を受けた前年に比べて、感染拡大の鎮静化に伴い来店者数が緩やかな回復基調にあったため、増収増益となりました。

医用検査機器



●オーディオメータ、眼振計、聴力検査室など、医療現場で使用される検査機器を提供しています。当期は医療機関の設備投資が回復傾向にあったほか、健診市場向けのオーディオメータや大型の聴力検査室の販売が好調に推移したことで、増収増益となりました。





代表取締役社長

いわ はし きよ かつ
岩橋清勝

失敗を恐れず挑戦する 組織づくりで さらなる企業価値向上に 邁進いたします。

Q 通期の業績と2023年度の見通しをお聞かせください。

2022年度の業績は、過去最高の連結売上高を達成し、営業利益・経常利益は過去最高であった前年度に次ぐ水準となりました。

当社の中核をなす医療機器事業の補聴器は、

対面販売を基本とするため、当社の中で最も新型コロナウイルス感染症の影響を受けやすい製品です。2022年度はコロナの規制緩和によって、補聴器販売店への来店者数が秋以降に大きく回復したことで、前年度を超える結果となりました。

また、環境機器事業と微粒子計測器事業は、好調であった前年度をさらに超え、過去最高の売上高となりました。特に、2022年2月に発売した20ナノメートルの微細な粒子を検出できる液中微粒子計の最上位機種「KS-20F」が計画した販売台数を上回り、売上高の増加に貢献しました。当社の液中微粒子計は、半導体の製造工程で使用される薬液の清浄度を管理するために使われています。今後、半導体の需要は底堅く推移することが予想され、当社の液中微粒子計の販売は引き続き好調を維持するものと考えています。

一方で、事業全体の利益は前年度に届きませ

んでした。これは、一部の部材費の高騰やコロナ収束に伴う営業活動の活発化によるコストが増加したことや、市場が求める製品の高度化に伴い開発費用が想定を超えたことなどによるものです。また、微粒子計の旺盛な需要にお応えするために、人員や生産設備への投資も引き続き行っており、これらに関連する費用が増加しています。

アフターコロナを迎え、世界中で経済活動がより一層活発化すると考えています。多様化する市場の需要を確実に捉えつつ、新製品の市場投入と新市場の創出を進めることで、2023年度は増収増益を見込んでおります。

Q リオネット補聴器の新製品とDX(デジタルトランスフォーメーション)戦略を教えてください。

補聴器の製品ラインナップを強化するために、

企業理念

リオンはすべての行動を通して人へ社会へ世界へ貢献する

この企業理念は、次に掲げる意義を表わす。

- 1 社会に対し"悪しきことをしない"ことではなく"良きことをなす貢献する"
- 2 "社会貢献こそが究極の目的であり、収益の確保と投資はそのための手段にほかならない"
- 3 "従業員が志と使命感を抱き、誇りを持って、業務を通じて社会に貢献する"
- 4 "社会貢献の志と力量のある人材を育成し、輩出し続ける"

経営理念

- 1 クオリティーオブライフ(生活の質の向上)
当社は、当社製品をご愛顧頂くお客様の"生活の質の向上"を目指して、従業員が一丸となって誠心誠意努力する
- 2 バリアフリー(障壁のない社会)
当社は、当社製品をご愛顧頂くお客様が"障壁"を感じることなく市民社会で活躍できる製品・サービスを提供する
- 3 エコ・マネジメント(環境管理)
当社は、企業の社会的責任の一環として、全事業分野において環境負荷の低減を意識した活動を実践する

新たな充電式デジタル補聴器を市場へ投入します。新製品には、最新の音声処理技術を搭載することで、聞き取りを妨げる周囲の音を低減させるなどの機能アップを図りました。この技術によって、補聴器をお使いになる方の生活環境に合わせた設定が今まで以上に可能となります。

補聴器のDX戦略につきましては、補聴器ユーザー、医療従事者、補聴器販売店をつなぎ、相互に必要な情報を共有し合うプラットフォーム「リオネットサークル」の構築を進めています。この新たな取り組みによって、今まで以上に補聴器の価値や魅力を伝えることが可能となります。また、聞こえに関する困りごとを解決することで顧客満足度を高めるとともに、補聴器装用率のさらなる向上を目指してまいります。

Q 時代の変化が激しい中で、リオンならではの取り組みについて教えてください。

当社が長年培ってきたコア技術同士を掛け合わせ、新たな製品・サービスを提供することを構想しています。主に二つあります。

一つ目が今夏に発売予定の騒音ばく露計です。

2023年4月に厚生労働省による「騒音障害防止のためのガイドライン」が31年ぶりに改訂されました。これまでは、著しい騒音が発生する工場などの屋内作業場において、作業場ごとに騒音管理をしていましたが、今回の改訂によって、新たに作業員の耳付近に騒音ばく露計を取り付け、個別にばく露量を測定・管理することが推奨されるようになりました。個人のばく露量によっては、健康診断を受けたり防音保護具を着用したりというような、個別の対応がより一層重要になります。騒音を測る騒音計、耳の聴力を測るオーディオメータといった当社が長年培った環境機器と医療機器の技術や知見を融合させ、騒音職場における労働安全衛生の質の向上を高める当社独自の管理システムを提案するなど、新たな市場を創出してまいります。

二つ目が聴覚拡張ヒアブルウェア「ASMOLA[®] (アスモラ)」です。これは、当社初のワイヤレスイヤホンとなります。当社の補聴器開発で培った技術と新たに開発したバイノーラル(両耳)信号処理技術を融合させることで、聞こえに関する今までにない体験を提供します。また、新たな顧客層にアプローチするために、クラウドファンディング

を活用することも初めての試みです。当社グループの持続的な成長に向けて、事業の可能性を広げる挑戦を続けてまいります。

Q 株主様に向けてメッセージをお願いいたします。

世界的な経済活動の正常化が進む中、企業価値を高めるには、事業の深掘りと同時に成長が期待できる事業に資源を集中する必要があります。これらを継続的に行うには、社員の成長が不可欠です。より創造性や生産性の高い仕事に取り組む機会を増やすことで、社員が生き生きと働き、失敗を恐れず挑戦する組織を作り、5年後の経営指



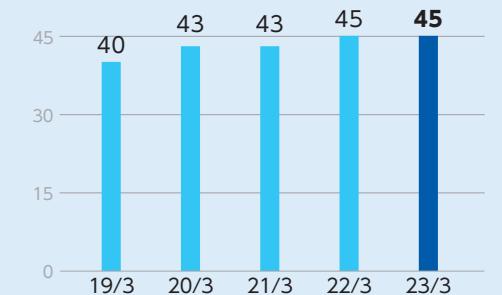
標として掲げる売上高300億円、営業利益率15%、ROE10%の達成を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続きご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株主還元に関する基本方針

当社は、株主様に対する利益還元を経営の重要政策のひとつと認識しており、継続的な配当の維持と業績に応じた配当水準の向上に努めることを基本方針としております。内部留保金の使途につきましては、企業価値の増大を図ることを目的として、中長期的な事業拡大のため、研究開発・製造設備等に戦略的に投資し、長期的な競争力の強化を目指してまいります。なお、剰余金の配当は、中間と期末の年2回実施しております。

1株当たり年間配当金の推移 (単位:円)



国際宇宙ステーションの飲料水の安全管理に挑戦

～生物粒子計数器によるリアルタイムモニタリング法～

国際宇宙ステーション(ISS)では、貴重な飲料水を確保するために、汗や尿などを浄化しています。この特集では、ISSの飲料水をめぐる課題解決に向けた研究に使用されている「生物粒子計数器」をご紹介します。

1 生物粒子計数器とは

すべての生物の細胞は、特定の色(波長)の光を当てた時に自ら光を発する「自家蛍光」という性質があります。この現象を利用することで、水中における生物と非生物を瞬時に見分け、細菌などをリアルタイムかつ連続的に計測する機器です。



生物粒子計数器
XL-10B1

生物粒子計数器の詳細はこちら



2 宇宙における飲料水の安全管理

浄化した水の安全性を確認する培養検査は定期的に水を地上へ運ぶ手間や培養検査自体に時間を要することが長年の課題でした。早期に細菌を検出できる高精度なリアルタイムモニタリング法の開発が進められれば、宇宙における飲料水管理の有効手段となる可能性があります。

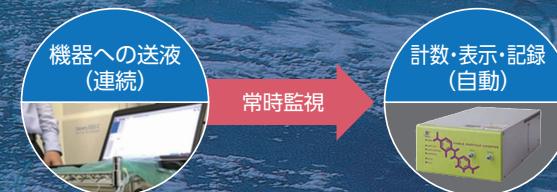
現状の培養法

検査結果を得るまでに5～7日間必要。



生物粒子計数器によるリアルタイムモニタリング法

培養が不要のため、検査結果はリアルタイムに得られる。



3 リアルタイムモニタリング法の実現に向けた研究

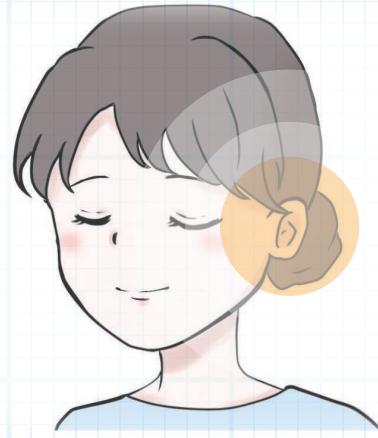
ISSの飲料水の課題解決は、ISS「きぼう」日本実験棟での実験テーマの一つとなっています。国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)と帝京大学の共同研究で実施され、当社は、帝京大学の研究協力者として参加しています。

4 当社の今後の取り組み

水資源の課題解決に向けて、海水の淡水化や雨水などの再利用を行う研究が国際的に進められています。様々な水質の水資源を飲用可能なレベルまで処理する過程で、安全性の確保に貢献できるように「生物粒子計数器」の改良を進めてまいります。

難聴の早期発見と適切な診察・診断へつなげる聞こえチェッカー

わずか2分で聞こえの程度を可視化



高齢者人口の増加に伴い、加齢などを原因とする難聴者は増加傾向にあります。しかし、難聴を自覚して補聴器を装着している方は、難聴自覚者の15.2%※に留まります。普段から自分自身の聞こえに興味を持ち、難聴の早期発見と適切な診察・診断へつなげるために開発した「聞こえチェッカー」をご紹介します。

※JapanTrak 2022 調査報告の「難聴者率と補聴器所有率」より

聞こえチェッカーとは

難聴の自覚のない方や聞こえにくさを感じても医療機関の受診に至らない方へ向けた、簡易的に聴力を測定できるシステムです。測定結果には性別・年齢別の聴力平均値によって判定された「聞こえ年齢」を表示。ご自身の聞こえの程度に関心を持つきっかけを提供します。



聞こえチェッカーのタブレット端末(左)と専用のヘッドホン(右)

聞こえチェッカーの体験会を実施

2023年1月に国分寺市内で、耳や聞こえの仕組みを学ぶことができる「聴覚講座」を開催し、その中で、「聞こえチェッカー」の体験会を実施しました。

受講者は専用のヘッドホンを着用し、「聞こえますか?」の問いに「はい」・「いいえ」で回答します。簡単に操作でき、わずか2分程度で「聞こえ年齢」が表示されました。体験会を通じて、どのような感想を持たれたのでしょうか。



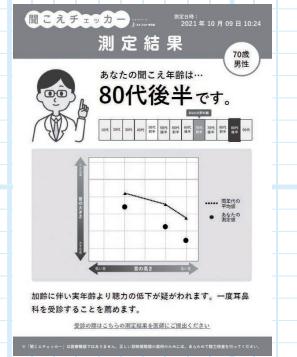
聞こえチェッカーを体験する様子

「聞こえ年齢」が「90代」という結果が出た70代の女性

「大人数で話すときに聞こえにくさを感じていましたが、結果を見て聴力が悪いことを実感しました。一度、病院で診てもらおうと思います。」

「聞こえ年齢」が「年齢相応」という結果が出た80代の男性

「自分の聴力は70代位かなと思っていましたが、80代前半という結果となってショックでした。このように悪い結果が出ると受診のきっかけになると思います。」



聞こえチェッカーによる測定結果

聞こえチェッカーの改良は続く

現在は実証段階ですが、今後は自治体、総合病院の待合室や薬局等に「聞こえチェッカー」を設置し、気軽に体験できるように検証を重ねて製品化を目指します。

トピックス

Topics

1 聴覚拡張ヒアラブルウェア「ASMOLA®」のクラウドファンディングを開始

リオン初の一般消費者向けワイヤレスイヤホン、聴覚拡張ヒアラブルウェア「ASMOLA® (アスモラ)」を開発しました。当社が補聴器開発で培ってきた音響信号処理技術に加え、独自開発した聴覚拡張プラットフォームと高品質オーディオプラットフォームを搭載することで、新たな聴覚体験や高品質な音楽再生・音声通話ストリーミングを実現します。ボリュームはワイヤ一部のリモコンで、各種機能は専用スマートフォンアプリで調整できます。

6月1日(木)よりクラウドファンディングサイト「GREEN FUNDING」にて購入型支援プロジェクトを開始しました。右より製品情報をご確認いただけますので、是非ご覧ください。

※ASMOLA®は医療機器ではありません。聞こえに課題を感じる方は医師に相談の上、補聴器を含めた製品のご検討をお勧めいたします。



聴覚拡張ヒアラブルウェア「ASMOLA®」

製品情報はこちら

→ <https://greenfunding.jp/lab/projects/7116>



2 普通騒音計「NL-43」と精密騒音計「NL-53」「NL-63」の3機種を同時発売

リオンは、普通騒音計「NL-43」と精密騒音計「NL-53」、「NL-63」を6月1日(木)に発売しました。新たにLAN端子を搭載し、通信機器との接続を強化したことで、ウェブブラウザを介した遠隔地の騒音モニタリングが容易になりました。また、USB Type-Cケーブル対応の市販のモバイルバッテリーによる給電が可能となったため、コンセントがない場所でも長時間の測定ができます。さらに、最大4種類の測定条件での同時測定が可能となるため、計測準備の手間を減らすことや測定器の維持管理費の軽減に貢献します。



精密騒音計「NL-53」

製品情報はこちら

→ https://svmeas.rion.co.jp/nl-43_53_63/



業績の推移

Financial Data

主な経営成績

(単位：百万円未満切り捨て)

	2019年3月期 (第98期)	2020年3月期 (第99期)	2021年3月期 (第100期)	2022年3月期 (第101期)	2023年3月期 (第102期)
売上高	21,289	21,465	20,466	22,635	23,868
営業利益	2,703	2,485	2,220	3,104	2,844
経常利益	2,789	2,577	2,297	3,212	3,007
親会社株主に帰属する当期純利益	2,002	1,779	1,636	2,229	1,799
純資産	21,043	22,232	23,726	25,289	26,612
総資産	28,476	29,850	30,683	33,157	34,557
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,664	2,696	2,064	2,841	1,783
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 756	△ 969	△ 1,137	△ 951	△ 3,246
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 532	△ 528	△ 566	△ 541	△ 577

1株当たりデータ

(単位：円)

純資産	1,713.99	1,810.87	1,931.15	2,057.40	2,163.30
当期純利益	163.14	144.96	133.27	181.41	146.33

主な指標

(単位：%)

自己資本比率	73.9	74.5	77.3	76.3	77.0
ROA(総資産経常利益率)	9.9	8.8	7.6	10.1	8.9
ROE(自己資本当期純利益率)	9.9	8.2	7.1	9.1	6.9
配当性向	24.5	29.7	32.3	24.8	30.8

詳しい財務情報は当社IRホームページをご覧ください。 <https://www.rion.co.jp/ir/>

音を科学する

「音」を科学することで
様々な製品を
生み出してきたリオン。
このコーナーでは
「音」の不思議な力、
素朴な疑問を
紐解いていきます。

カクテルパーティー効果

私たちの身の周りには、様々な音が存在し、音から多くの情報を得ています。

例えば、大広間で多数の人々が談笑している立食パーティーの光景を思い浮かべてみましょう。そうした賑やかで騒がしい状況で特定の相手と会話する時に、私たちは様々な声や音が混在する中から自分が聴き取ろうとする声だけを抽出・検知することができます。これが「カクテルパーティー効果」と呼ばれる現象です。

耳が聴き取る雑多な音の中から、不要な音声を脳が無意識のうちに除去し、自分にとって必要なものだけを認識しているわけです。また、話題や相手の表情などを総合的に捉えることで、言葉を厳密に聴き取れなくても、会話が成立することがあります。しかし、耳慣れない外国語が飛び交うパーティーでは、よほど語学に堪能でない限り「カクテルパーティー効果」は、期待できません。



こうした効果は聴覚に限らず、視覚にも類いの現象があります。複雑に描かれた混沌とした図形の中から、特定の像だけを抽出・認識させる絵画や、逆に特定の像を意図的に隠す「だまし絵」などが、例として挙げられます。人間が持つ感覚の興味深い特性といえるでしょう。

出典:山下充康著「謎解き音響学」(丸善)

株主優待制度のご案内

期末配当基準日(3月31日)現在の株主様を対象に株主優待を実施しております。

ジェフグルメカード(食事券)



100株以上 ▶	500円分
500株以上 ▶	1,500円分
1,000株以上 ▶	3,000円分
5,000株以上 ▶	5,000円分
10,000株以上 ▶	10,000円分

【追加】100株以上かつ3年以上継続保有※ ▶ 1,000円分

※同一の株主番号で、毎年3月末と9月末の株主名簿に7回以上連続で記録された株主様を3年以上継続保有とみなします。

リオンネット補聴器購入割引券

リオンネット補聴器購入割引券



100株以上

※メーカー希望小売価格の
10%割引
(片耳購入の場合は1台分)
(両耳同時購入の場合は2台分)

有効期間：1年間

リオン株式会社 〒185-8533 東京都国分寺市東元町3-20-41
TEL.042-359-7830(リオン株式会社 企画部 IR広報課)

<https://www.rion.co.jp>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

